

# 駒場瀧不動尊山門屋根改修 鐘樓建築について勧進趣意書

駒場瀧不動尊の歴史は古く今を去る壹千百年の前嘉祥三年、天台座主の慈覚大駒場が奥州ご巡錫のみぎり、世の平安と人々の幸福を念じて激流岩をかこむ、ここ駒場が滝において自ら不動尊像を刻み、岩窟に祀られました。

爾來この駒場瀧不動尊にお参りする信者はあとを絶たず、特に行者や山伏の修行の道場として栄えました。不動尊の仁王門は徳川時代の終わりに近い文化文政の頃、郷土の義民菊地太衛によつて建てられました。その頃、相次ぐ冷害飢饉にあえぐ農民に対する役人の暴政に対して、農民は一揆騒動を起こそうとしました。その時太兵衛は日々の安樂と社会の平和を祈つて私財を投じ人々の善意を集め十三年もの歳月をこなしたので一時悩み迷いましたが農民を救うことこそ神仏の意にかなうことを見出し、造営を一時中断し、種々請願運動をしましたが、最後には意を決し単身をいそしんでいました。この淨業がまだ完成をみなし藩主伊達様に直訴して、とらえられ遂に獄中で殺されました。しかし藩は上觉悟し、このことにより藩政を正し悪役人を追放し善政が施されました。この為その後百数十年間山門は未完成のまゝになっていましたが、昭和五十六年に皆様のご協力により完工事が施されました。

現在は阿武隈渓谷県立公園内にある修驗山伏の寺院として、東北三十六不動尊三十三番札所として、活動しております。また、近年は遠方からの参詣者も多くなります。

山門（仁王門）屋根改修

山門梵鐘は弘化二年に奉納され、毎日その麗音を伊具盆地の近郷にこだまし、住民に自ら菩提心を起こさしめ慰安を與えてまいりましたが、破損・戦争に際しての民供出で現在のは三代目であります。この状況では、雨漏り等のことが考えられ、郷土の宝物である山門を末永く守つていく上で、屋根の全面的な改修を行いたいと思います。

鐘楼の建設

山門（仁王門）屋根改修

山門梵鐘は弘化二年に奉納され、毎日その麗音を伊具盆地の近郷にこだまし、住民に自ら菩提心を起こさしめ慰安を與えてまいりましたが、破損・戦争に際しての民供出で現在のは三代目であります。この状況では、雨漏り等のことが考えられ、郷土の宝物である山門を末永く守つていいく上で、屋根の全面的な改修を行いたいと思います。

建設予定額 金二千万円  
目標完成予定 山門 平成二三年 ・ 鐘楼 二六年

就きましては、有縁の方々におかれましては、この淨願について御理解下され手段の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

御協賛の方は芳名録に記帳の上、御本尊前に備え付け永代家内安全諸願成就 御祈念申し上げます。

宮城県伊具郡丸森町字不動五九

駒場山 愛敬院 住職 大江 善光  
駒場瀧山門鐘楼不動尊修築委員会 委員長 石井 勘治